ハンセン病に理解を

邑久光明園の屋さん講演

玉野高校

ハンセン病を巡る人権侵害の歴史について玉野高生徒に語る屋さん

玉野高校は25日、人権教育講演会を開き、国立ハンセン病療養所・邑久光明園（瀬戸内市邑久町虫明）の入所者自治会長の屋猛司さん(75)から、園内で行われていた人権侵害の歴史について学んだ。

屋さんは、逃走した入所者を閉じ込める監禁室があったことや、強制的な堕胎が1960年ごろまで行われたことなどを説明。「人権侵害が当たり前の状態だった」と話した。ハンセン病は感染力が弱く、現在はプロミンという治療薬で完治することも紹介。「正しく認識し、元患者への偏見や差別意識は持たないでほしい」と訴えた。

全校生徒約430人が聴講。2年植田三鈴さん(17)は「看護師も堕胎に協力していたと聞いてショックを受けた。元患者への差別は絶対にあってはならないと思った」と話した。

玉野高校は2016年度から県教委の人権教育研究モデル推進校（2カ年）。生徒は長島愛生園（瀬戸内市邑久町虫明）を訪問するなど、ハンセン病をテーマに学習している。

（正本和臣）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2017年10月28日 山陽新聞朝刊 26ページ